

カメラまかせて 撮影してみよう

KEYWORD ⇒ シーンインテリジェントオート ⇒ シャッターボタン ⇒ タッチシャッター

1 シーンインテリジェントオートに設定する

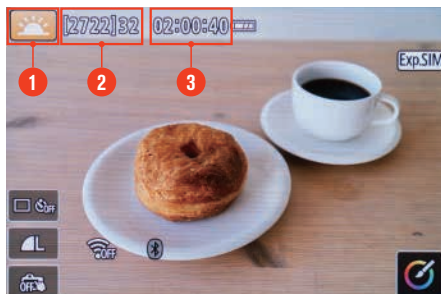
シーンインテリジェントオートとは、カメラが自動的に被写体や撮影場所の状況を認識し、適した設定を行う**全自動の撮影モード**だ。人物の肌はよりナチュラルな色で描写し、風景などは自然の緑や空の青がより鮮やかに再現される。はじめてカメラを手にした人でも、シャッターを切るだけで美しい写真を撮ることが出来る。

【 操作手順 】



モードスイッチを動かして、シーンインテリジェントオート (Ai AF) のアイコンを印に合わせる。

【 表示画面 】



① シーンのアイコン

カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示される。

② 撮影可能枚数

静止画の撮影可能枚数は [] 内に、[] の外には連続撮影可能枚数が表示される。

③ 撮影可能時間

動画の撮影可能時間が表示される。

ピントの役割を理解しよう

KEYWORD >> ピント

1 ピントについて理解する

ピントを合わせる（フォーカスを合わせる）とは、写真を撮る時に撮影者が**主役**にしたいと思った被写体をくっきりと写すことをいう。何にピントを合わせるかは、主役が何なのか、何を見せたいのかを、見る側に明確に伝える一番のポイントとなる。前後のボケ感との組み合わせで主役を引き立てることも出来る。

【手前の絵馬が主役】



手前の絵馬にピントを合わせることで、書かれた文字や招き猫の絵の特徴を捉えた。

【奥の絵馬が主役】



奥の絵馬にピントを合わせることで、たくさんの絵馬が奉納されている状況を説明した。

フォーカスモードを知ろう

KEYWORD

⇒ オートフォーカス(AF) ⇒ マニュアルフォーカス(MF)

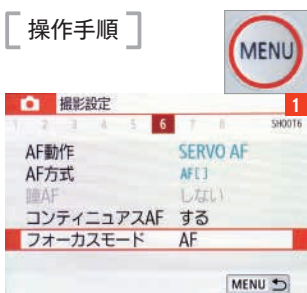
1

フォーカスモードの種類と特徴を知る

ピント合わせの方法は**フォーカスモード**という。フォーカスモードには、カメラが自動でピントを合わせてくれる**オートフォーカス(AF)**と、撮影者が手動でピントを合わせる**マニュアルフォーカス(MF)**の2種類がある。また、AFにはワンショットAF(ONE SHOT)とサーボAF(SERVO)の2種類の動作(→P.36)があるので、個々の特徴を踏まえながら、撮影したいシーンや被写体によって使い分けよう。

AF	シャッターを半押しにするとカメラが自動的にピントを合わせてくれる。動きのある被写体や瞬時に撮影するスナップにはAFが有効。
MF	自動でフォーカスリングを回してピントを合わせる。マクロ撮影や暗いところ、陰影が少ない被写体などAFでピントが合いにくい時に有効。

【操作手順】



静止画モードの状態では、MENUボタンを押してメニュー画面を開く。[CAMERA]から「フォーカスモード」の項目を選択し、MENUボタンを押す。



▲/▼ボタンでフォーカスモードを選択し、MENUボタンを押す。

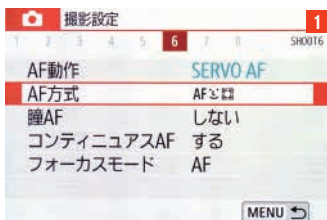
瞳AFでピントを
合わせよう

KEYWORD 瞳AF

1 瞳AFを設定する

瞳AFとは、カメラが人の目を検知してピントを合わせてくれる機能のこと。EOS M200の瞳AFは**サーボAF**にも対応しているので、ピントはカメラに任せて、被写体の表情に集中して撮影をすることが出来る。AF方式が 顔 + 追尾優先AF以外に設定している際は機能しないので、使用する時は設定を確認しよう。

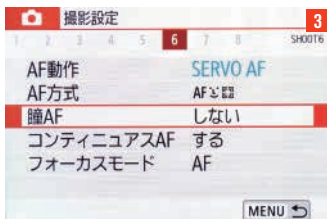
【操作手順】



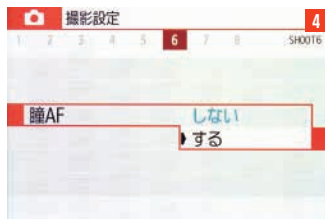
静止画モードの状態、MENUボタンを押してメニュー画面を開く。[6]から「AF方式」の項目を選択し、 OK ボタンを押す。



◀/▶ボタンで 顔 + 追尾優先AFを選択し、 OK ボタンを押す。



MENUボタンを押してメニュー画面を開く。[6]から「瞳AF」の項目を選択し、 OK ボタンを押す。



▲/▼ボタンで「しない」から「する」を選択し、 OK ボタンを押す。

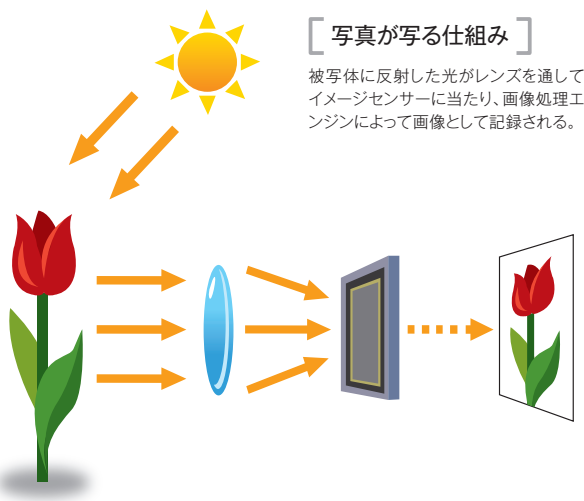
01

▶▶ 露出について知ろう

KEYWORD ⇨ 露出 ⇨ 絞り ⇨ シャッター速度

1 写真の明るさを意味する露出

デジタルカメラは、被写体に反射した**光**を撮像素子（イメージセンサー）で取り込み、画像処理エンジンによって画像として記録している。この時の光の量を**露出**といい、レンズに搭載された絞り羽の開き具合（**絞り値**）と、カメラのシャッター幕を開閉する速度（**シャッター速度**）によって調整する。絞り値とシャッター速度の組み合わせによって、写真の**明るさ**や被写体の**描写**をコントロールすることが写真表現の基本だ。この仕組みを理解することで、思い描いたイメージを写真に反映することができ、撮影がさらに楽しくなる。EOS M200は、シーンインテリジェントオートとPモード（プログラムAE）以外の撮影モード（→P.48-49）で、露出や描写を自分でコントロールすることが出来る。



【写真が写る仕組み】

被写体に反射した光がレンズを通してイメージセンサーに当たり、画像処理エンジンによって画像として記録される。

プログラムAEで撮影しよう

KEYWORD ➡ プログラムAE ➡ AEロック ➡ プログラムシフト

1 スナップ向きのPモード

被写体を取り巻く明るさに応じてカメラが絞りとシャッター速度を自動で設定してくれる**プログラムAE(P)**モードは、露出をカメラにまかせることで撮影に集中出来るため、初心者におすすめの撮影モードだ。ほかにも、とっさのシャッターチャンスに出会うことの多いスナップ撮影でも活躍する。



小走りに通り過ぎる親子が、洋服に描かれた猫の視線の先にくるタイミングを狙ってシャッターを切った。露出を気にせずシャッターチャンスに集中出来るのがPモードの利点だ。

DATA

レンズ EF-M32mm F1.4 STM モード プログラムAE 焦点距離 32mm
 絞り F3.5 シャッター速度 1/100秒 ISO 400 WB オート 露出補正 -1/3

操作手順



1 モードスイッチを動かしてカメラのアイコンを印に合わせ、画面左上のアイコンをタッチする。



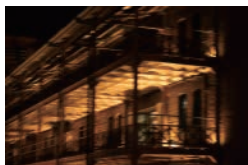
2 P(プログラムAE)を選択し、**OK** ボタンを押す。

ISO感度について
知ろう

KEYWORD ⊕ ISO感度

1 ISO感度とは

ISO感度とは、カメラの撮像素子(イメージセンサー)が感じられる**光の量を数値化**したもの。EOS M200の常用感度は100～25600。ISO感度が高ければわずかな光でも感じ取ってくれるが、上げすぎるとノイズが発生しザラザラとした印象になってしまうので状況に応じた適切な感度を選ぶようにしましょう。



ライトアップされた建物をISO100で撮影。シャッター速度が遅く、手持ちではブレてしまった。



ISOを8000まで上げたことで、手持ちでもブレずに撮影出来た。

DATA

レンズ EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STM
 モード 絞り優先AE 焦点距離 55mm 絞り F4.5
 シャッター速度 1/25秒 ISO 8000 WB オート

【 操作手順 】



画面右下のISOのアイコンをタッチする。



ISO感度の設定バーが表示される。◀/▶ボタンで値を変更して、Ⓢボタンを押す。

被写体の色味や明るさをコントロールしよう

KEYWORD ⊕ ホワイトバランス ⊕ 露出補正

1 ホワイトバランスで色味を補正する

写真では光の持つ色の性質によって目で見た通りの色合いに写らないことがある。そんな時に色合いを調整するのに、活用するのが**ホワイトバランス**という機能だ。光の種類に応じて設定されている太陽光や白熱電球といったホワイトバランスを選ぶことで、白いものを白く写るようにカメラが色味を補正してくれるが、あえて特定の色味を強調するのに使う場合もある。



オートで撮影すると、暖色系の電球に照らされた空の色が少しくすんだ印象になった。



ホワイトバランスを「白熱電球」にするとライトアップの色合いがよりクリアになり、空の青さも際立った。

DATA

レンズ EF-M15-45mm F3.5-6.3 IS STM
 モード マニュアル 焦点距離 29mm 絞り F22
 シャッター速度 40秒 ISO 400 WB 白熱電球

操作手順



Ⓢボタンを押してクイック設定画面を開く。



▲／▼ボタンで「ホワイトバランス」の項目を選択し、◀／▶ボタンでホワイトバランスを選んでⓈボタンを押す。

望遠ズームレンズを
使おう

KEYWORD

② 望遠ズームレンズ ② 圧縮効果

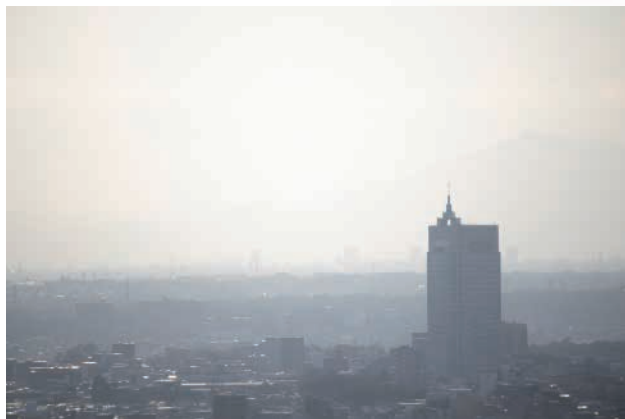
1

望遠ズームレンズについて知る

遠くの被写体を大きく写すことが出来る望遠ズーム。遠くの建物や動物など、被写体に近付いての撮影ができないシーンで活躍してくれる。被写体を大きく写すだけでなく、絞り開放時の大きなボケや被写体の前後の空間を実際より近付けて見せる**圧縮効果**など、望遠ズームならではの描写を生かして、より印象的な写真を撮ってみよう。

EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STM

焦点距離 55-200mm
(35mm判換算89-323mm相当)
最短撮影距離 1m
最大撮影倍率 0.21倍
質量 約260g
希望小売価格 49,000円(税別)



展望台から3つ先の駅にあるビルを撮影。レンズの効果で遠くの街並みもギュッと近寄って見える。

DATA

レンズ	EF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STM	モード	絞り優先AE	焦点距離	200mm
絞り	F6.3	シャッター速度	1/640秒	ISO	100
		WB	オート	露出補正	+1

街スナップに挑戦しよう

KEYWORD ② ハイアングル ② ローアングル

1 さまざまなアングルから撮る

同じ被写体でも、**アングル**を変えることで違った印象になる。街中で写真を撮る時は目線の高さでカメラを構えることが多いが、上から見下ろす**ハイアングル**、下から見上げる**ローアングル**を使い分けてみよう。目の前の被写体をどのように切り取るのがいいのか、いろいろなアングルを試すことで、自分らしい街スナップを楽しもう。



植木鉢に飾られたフクロウのオブジェをハイアングルから撮影。高い木の枝にフクロウが止まっているような雰囲気を演出した。

DATA

レンズ

EF-M28mm F3.5 マクロ IS STM

モード

絞り優先AE

焦点距離

28mm

絞り

F3.5

シャッター速度

1/80秒

ISO 1600

WB

オート



お店の入り口のシーサーの置物をローアングルで撮影。地面ギリギリまでカメラを下げ、シーサーを正面から捉えたことでシーサーの目力が際立った。

DATA

レンズ

EF-M22mm F2 STM

モード

絞り優先AE

焦点距離

22mm

絞り

F2

シャッター速度

1/125秒

ISO 100

WB

オート